令和２年 11 月５日発行　毎月１回５日発行　オイスカ通信 683 号　昭和 42 年 12 月 27 日　第三種郵便物認可　別紙

公益財団法人 オイスカ

FURUSATO！ 11 月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

芋ほり大会　開催

10月25日（日）、センターで芋ほり大会を開催しました。例年「オイスカふるさと祭り」をこの時期行っていますが、コロナ禍のため今年は見合わせ、規模の小さいイベントを実施しました。できるだけ接触機会を減らすためでもありますが、「今年はふるさと祭りを開催しないのですか?」とよく聞かれ、残念がられてしまいました。また状況を見ながら来年の開催を検討したいと思います。

さて、今回の芋ほりはできるだけ密にならないように時間帯を２つに分散して構成し、春に植え付けたサツマイモを収穫し、みんなで「サツマイモダンス」を踊り、焼き芋を食べるというシンプルなものです。地元の博進子供会や近隣の子供たちの参加もあり、和やかな雰囲気の中、行うことができました。

即興ではあるものの「サツマイモダンス」も子供たちに好評で、畑の中で「芋！」になりきりました。芋尽くしです！

中々、イベントも企画できず研修生との交流機会も少ない状況ですが、少しでもオイスカや研修生が周りを明るくできる環境を整えていきたいと思います。（矢野）

イモ！サツマイモ！
イモ！サツマイモ！

天気にも恵まれ、芋ほりも芋ダンスも研修生共々楽しむことができました。

竹林整備　竹林を守る

10月初旬、環境保全の一環で竹林整備を行いました。竹は定期的な管理が必要です。日光が竹林を透過して、アブラムシやダニなどの害虫を防除することができます。日本と私の国のフィリピンでは竹の種類が違うので管理も変わってきます。日本では竹林は広がっていくので間伐しなければいけません。フィリピンの竹は、広がらないので管理をしなくてもいいです。またフィリピンで家や家具などを作るのに竹を使うので定期的に切る習慣があります。

竹林整備は、研修生と一緒に行いました。研修生達の国では、森があっても竹林の管理が初めての人もいて、難しいこともありました。木と竹では切り方も少し違います。切った竹を「竹粉機」でチップ化しました。チップにした竹粉はまた堆肥化して、圃場に使います。外部から何人か手伝いに来てくれた人にも竹粉を持って帰ってもらいました。まだまだ、竹の有用性は理解してもコスト面で合わずに放置している竹林がたくさんあります。

また皆さんと一緒に来年の新しいタケノコ掘りを企画してやってみたいと思います。そして元気な森づくりと竹林整備を続けましょう。（デニス）

切った後の処理が大変です。
研修生には竹粉利用の研修になり、手伝ってくれた農家さんには土壌改良の良い資材を提供できました。

インターン挨拶

こんにちは。オイスカ開発教育専門学校から参りました。「吉武夏希」です。専門学校では主に国際協力を見据えた農業の勉強をしています。10月～来年１月の４ヵ月間、国内研修があり、このオイスカ四国研修センターには１ヶ月間お邪魔させていただきます。センターでの生活は、全てにおいてきちんとしていて慣れるまで大変ですが、研修生たちと一緒にがんばります。これから、よろしくお願いします。

オイスカの稲作

稲作は日本やアジアに昔からある農業の一つです。10月に研修生と中学生が一緒に交流で稲刈りを行いました。稲刈りするのが初めての人もいるので、その時に日本と研修生達の国の稲作方法の違いについて話しました。日本は稲刈する時に殆どコンバインを使うのでとても便利です。それでお米の片付けが早めにできます。研修生達の国ではお米の収穫は今でも手鎌を使います、時間がかかる上に大変です。稲刈りは大変な作業ですから農家さんにいつも感謝して、そして農作物をいつも大切にしようと伝えるにはとても良い体験です。

また今年も美味しいお米ができたので、是非食べてみて下さい。よろしくお願いいたします。（デニス）

米・卵販売

センターで作っている米や卵を販売しています。それぞれこだわりを持っていますので、是非お買い求め下さい。

今年も新米の季節がやって来ました！　猛暑を乗り越えて、しっかりと実ってくれたお米たち。食欲の秋、ぜひオイスカのお米をご賞味下さい。モリモリ食べて、寒さに備えましょう！

オイスカの鶏は、国産種の「もみじ」を平飼いにしています。エサは、遺伝子組み換えではないトウモロコシを使用し、うどんの出汁がらなど、自家配合したものを発酵させて与えています。元気いっぱいの鶏たちは、平飼いの鶏舎で毎日のびのびと走り回っています。健康な鶏が産んだ卵、「卵かけごはん」がオススメです！（安部）

減農薬米：１kg　300円
農薬・化学肥料不使用米：１kg　500円
平飼い有精卵：10個入り　400円

11 月の予定

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
2 日	月	OSATO 活動　植樹	綾川町立陶小学校	綾川町立陶小学校
2～4 日	月～水	海岸林再生プロジェクト研修	宮城県支部	宮城県名取市
4 日	水	支部常任幹事会	四国支部	四国センター
7 日	土	高松北高文化活動	高松北高文化部	大西・アオイ記念館
15 日	日	尾の瀬山下草刈り活動	四国支部	尾の瀬山
17～18 日	火～水	若手職員研修会	オイスカ本部	東京都
24 日	火	アクションプラン発表会	四国センター	四国センター
25～26 日	水～木	広島県視察研修	広島県支部	広島県

「FURUSATO！」11 月号　発行
公益財団法人　オイスカ四国研修センター
〒761-2103　香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL　087-876-3333　FAX　087-876-3334
E-mail; oiscastc@oisca.org

古本で！
「子供の森」計画サポートプロジェクト
OISCA × VALUE BOOKS

メキシコ特集

メキシコを感じる鮮やかなマスクで現地を応援！！

Hola!(オラ!)、と人懐っこい笑顔が飛び交うメキシコ。日本からは遠い国と想像される方も多いかと思います。歴史を紐解けば、400年以上に亘り国交がある実は身近な国です。

現在のオイスカメキシコ総局は2005年に現会長のホセ・マルティン氏がオイスカの活動や理念に感銘を受け、発足に至りました。

2017年、四国センターに初めて同国から研修生を派遣し、ここ数年メキシコからの受け入れが続いているのは、オイスカ活動を担う青年を育成しようと積極的な姿勢によるものです。現地の「子供の森」計画では、郷土樹種（サボテンなど）を中心に植林や種子の採取と保存、苗木の管理などが学校や各家庭で行われています。

そんなメキシコですが、新型コロナウィルスの感染者数の累計が90万人（2020年10月現在）にも上っており、活動地にもその影響は及んでいます。同地ではオイスカ・メキシコが中心になり、医療従事者への医療用具の提供や現地のオイスカネットワークを生かした失業者への食糧配布など、地域の人々と協力しながら日々活動を続けています。

今回ご紹介する「メキシコマスク」は、コロナウィルス対策支援の一環として、活動地周辺の先住民族の女性たちの手仕事・刺繍の文化継承を目的にオイスカとのコラボレーションで生まれたものです。代々引き継がれるその手仕事は、柄、色使いなどがそれぞれ異なる1点ものです。

2000円一口で現地でのコロナ対策活動、及び女性たちの文化継承支援として活用させていただきます。

※こちらのご支援につきましては、税控除の対象となりません。（＊手作りのため、大きさや柄が一つひとつ異なります。また、数に限りがございますので、ご了承ください。）

マスクデザイン

とつげき！！！ 隣の研・修・生！

このコーナーでは、毎月研修生1人をピックアップして、研修や生活など、いろんなことを聞いていきます！

今回は、メキシコから来たパオラです。

パオラ's profile

出身国　メキシコ
研修コース　地域開発
誕生日　12月20日（23歳）
趣味　歌を歌う

Q　8ヵ月日本にいますが、日本での思い出を教えてください。

9月に金比羅山に行ったことです。階段がたくさんあって頂上まで行くのは大変だったけど、たくさんの自然を見ながら歩くのは楽しかったです。私は自然が好きなのでとても心が癒されました。メキシコに帰る前にもっと自然がきれいなところに行ってみたいです。

Q　メキシコでは11月に伝統的な行事が行われるそうですが、どのような行事ですか？

行事の名前は「ディアデ・モルトス」です。日本のお盆のような時期で、11月2日から1週間します。家族が集まって、亡くなった人の写真の周りに、食べ物や花、ろうそくを飾って帰って来るのを盛大に迎えます。

私の故郷ではしませんが、お墓の周りでダンスをしたり、一晩過ごしたりする地域もあるそうです。

日本のお盆は少し静かでした。それが日本の良いところだと思います。同じような行事でも国が違うといろんなことが違うので、おもしろいです。

日本にいる間、浴衣やお茶などの日本文化を体験しました。とても興味深いです。ぜひとも、メキシコに持って帰りたいです。

ディアデ・モルトス

抹茶を初めて飲みました！ちょっと苦かったです。

☆交流と視察研修☆

中学生との交流

10月14、15、21日の3回に分けて、香川県立高松北中学校の2年生との交流授業を行いました。午前は研修生による国の発表や、質疑応答をしました。研修生も今年は交流の回数が少なく、慣れない中、最初はぎこちない発表でしたが徐々に上手になっていき、生徒たちも研修生の国について理解してくれました。研修生も生徒たちの学校について質問し、「自分の国と違って部活動の種類が多い。」などと話していました。

午後は、稲刈りやサツマイモほりといった農業実習を行い、初めて農業をする人がほとんどだったため、終了ぎわにはみんな疲れ果てていました。生徒たちはとても活発だったため、研修生も一緒に活動出来て楽しそうでした。（金澤）

初日の交流で心配しましたが、中学生の日本語も理解できたので安心しました。稲刈りもしっかり教えてきれいに刈ることができました。みんな楽しくできたと思います。2日目はちょっとにぎやかでしたね。（ジョマリ）

中学生には研修生との交流、稲刈りと初めて尽くしで大変でした。研修生もいい経験になりました。

農場見学

研修の一環で行っている外部農場見学ですが、今回は綾川推進協議会の三好東曜さん達と一緒に行ってきました。いつもはセンターのメンバーで完結している研修ですが、外部の方たちに研修生の様子を交流以外で見て頂ける良い機会となりました。

熱帯果実の生産、加工、販売までを手がける稀有な第6次産業、三豊市のアンファームさんへ見学に行ってきました。マンゴーもアボカドもスーパーで買うものは早熟な果実を青いままもぎ、長い時間をかけて日本に来ます。「とれたてとは味が全く違う」という社長の安藤さん。60歳を過ぎてから今の事業を2億5千万円投資して始めたというのだから、そのパワーに驚きを隠せません。アフリカで食べた美味いアボカドを栽培して日本でもたらふく食べたいです。（三好）

果物にとって良い土、適切な品種の選定は勉強になりました。加工も色々行っていて非常に面白かったです。フィジーにもある果物ですが、ジャムなどの作り方は違いました。頂いたアイスクリームも美味しかったです。（メレ）

日本でアボカドが成っているところを初めてみました。

果物を使ったジャムやドライフルーツなどの加工品も充実していました。